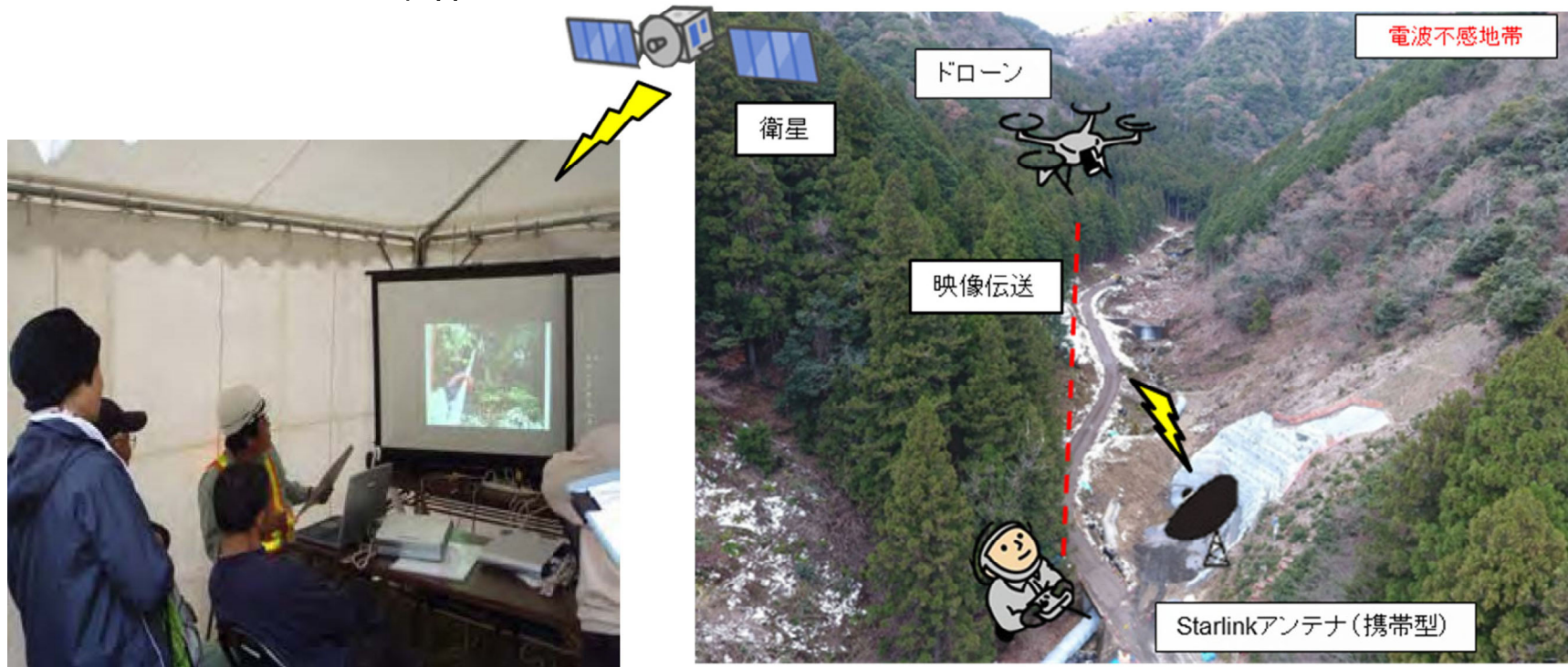


# 用地ストック進捗に向けた今後の取り組み

## DX施策の試行

- ①リモート境界立会：通信システム（衛星コンステレーション・インターネットブロードバンド）とウェアラブルカメラ、UAVの活用により、現地に直接行かずに境界確認を実施。（山間部の携帯電話等不感地帯でも可能）  
立会時間の短縮及び地権者の安全確保
- ②リモート物件調査：UAVの活用により、急傾斜地の立木調査等を実施。作業員の安全確保



Starlinkを活用した山間部でのリモート境界立会イメージ

## 用地ストック進捗に向けた今後の取り組み

### DX施策の試行

- ③3次元点群データの活用: 建物や立木の調査にTLS、LiDAR等を活用。  
TLS: 調査時間の短縮及び作業員の安全確保  
LiDAR: 3次元点群データ取得。仮想空間構築
  
- ④ICT、メタバース等の活用: 直接的な対面によらない用地交渉。現地確認しながらの用地交渉。移動時間の削減



TLSを活用した立木調査



仮想空間での現地確認イメージ